

Rec'd PCT/PTO 21 APR 2005

10532260

特許協力条約

発信人 日本国特許庁 (国際予備審査機関)

出願人代理人
宮田 正昭

あて名

〒 104-0041
東京都中央区新富一丁目1番7号
銀座ティークイビル
澤田・宮田・山田特許事務所

様

PCT
国際予備審査機関の見解書
(法第13条)
(PCT規則66)

発送日
(日.月.年) 20.4.2004

出願人又は代理人
の書類記号 S03P1243W000

応答期間
上記発送日から 2 月以内

国際出願番号
PCT/JPO3/13695

国際出願日
(日.月.年) 27.10.03

優先日
(日.月.年) 28.10.02

国際特許分類 (IPC) Int. Cl. G11B27/00, G11B20/10, G11B20/12, H04N5/91

出願人 (氏名又は名称)
ソニー株式会社

- ☐ 国際調査機関の作成した見解書は、国際予備審査機関の見解書と ☐ みなされる。
☐ みなされない。
- この第 1 回目の見解書は、次の内容を含む。
 - ☒ 第I欄 見解の基礎
 - ☐ 第II欄 優先権
 - ☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
 - ☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
 - ☒ 第V欄 法第13条 (PCT規則66.2(a)(ii)) に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
 - ☐ 第VI欄 ある種の引用文献
 - ☐ 第VII欄 国際出願の不備
 - ☐ 第VIII欄 国際出願に対する意見
- 出願人は、この見解書に应答することが求められる。
いつ? 上記応答期間を参照すること。この応答期間に間に合わないときは、出願人は、法第13条 (PCT規則66.2(e)) に規定するとおり、その期間の経過前に国際予備審査機関に期間延長を請求することができる。ただし、期間延長が認められるのは合理的な理由があり、かつスケジュールに余裕がある場合にに限られることに注意されたい。
どのように? 法第13条 (PCT規則66.3) の規定に従い、答弁書及び必要な場合には、補正書を提出する。補正書の様式及び言語については、法施行規則第62条 (PCT規則66.8及び66.9) を参照すること。
なお 補正書を提出する追加の機会については、法施行規則第61条の2 (PCT規則66.4) を参照すること。補正書及び/又は答弁書の審査官による考慮については、PCT規則66.4の2を参照すること。審査官との非公式の連絡については、PCT規則66.6を参照すること。
应答がないときは、国際予備審査報告は、この見解書に基づき作成される。
- 特許性に関する国際予備報告 (特許協力条約第2章) 作成の最終期限は、
PCT規則69.2の規定により 28.02.2005 である。

名称及びあて先
日本国特許庁 (IPEA/JP)
郵便番号 100-8915
東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)
宮下 誠

5Q 3243

電話番号 03-3581-1101 内線 3590

第I欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

☐ この見解書は、_____語による翻訳文を基礎とした。

それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査

☐ PCT規則12.4にいう国際公開

☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この見解書は下記の出願書類に基づいて作成された。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この見解書において「出願時」とする。)

☒ 出願時の国際出願書類

☐ 明細書

第 _____ ページ、 出願時に提出されたもの

第 _____ ページ、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ ページ、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☐ 請求の範囲

第 _____ 項、 出願時に提出されたもの

第 _____ 項、 PCT19条の規定に基づき補正されたもの

第 _____ 項、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ 項、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第 _____ ページ/図、 出願時に提出されたもの

第 _____ ページ/図、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ ページ/図、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 _____ ページ

☐ 請求の範囲 第 _____ 項

☐ 図面 第 _____ ページ/図

☐ 配列表(具体的に記載すること) _____

☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

4. ☐ この見解書は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を越えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 _____ ページ

☐ 請求の範囲 第 _____ 項

☐ 図面 第 _____ ページ/図

☐ 配列表(具体的に記載すること) _____

☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第13条(PCT規則66.2(a)(ii))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性(N)	請求の範囲	1-31	有
	請求の範囲		無
進歩性(IS)	請求の範囲	1-22, 29, 30	有
	請求の範囲	23-28, (31)	無
産業上の利用可能性(IA)	請求の範囲	1-31	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明

文献1: JP 2001-297519 A (株式会社東芝),
2001.10.26

文献2: JP 2002-207603 A (日本電気株式会社),
2002.07.26

請求の範囲1-8, 16-19, 29に係る発明における再生同期管理情報を自動的に消去されるディレクトリに記録する構成は国際調査報告に引用されたいずれの文献にも記載されておらず、当業者にとって自明なものでもない。

請求の範囲9-15, 20-22, 30に係る発明における抽出された記録管理情報のリンク情報に基づいて再生同期管理情報を抽出して消去する構成は国際調査報告に引用されたいずれの文献にも記載されておらず、当業者にとって自明なものでもない。

請求の範囲23-28, 31に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1(段落番号【0017】-【0038】、第4-5図)と国際調査報告で引用された文献2(段落番号【0027】-【0046】、第2-11図)とにより進歩性を有しない。文献2に記載された排他情報を参照してデータが記録中であるかどうかを判断し、判断の結果に基づいてデータの処理を行う構成を、文献1の記録再生装置に付加することは、当業者にとって容易である。